

# 九州地区における イタリアンライグラス新品種 「タチワセ」の試作結果と 優良栽培事例

雪印種苗(株)宮崎試験農場

場長 **新海和夫**



左・タチワセ、右・ワセユタカ(九州農試畑作部)

## 1 はじめに

昨年秋に、NHKテレビ九州地区放送のイブニングネットニュースで、イタリアンライグラス「タチワセ」が倒れにくい新品種として紹介され、各地で話題となりました。実際に今までにない直立型の独特の草姿であり、明らかに他品種と異なり倒伏に強い印象が顕著で注目されています。

ここでは、九州地区における「タチワセ」の試作結果と優良栽培事例について紹介し、イタリアンライグラスの乾草、サイレージ、青刈りに広く利用していただきたいと思います。

## 2 九州地区の試作結果

### 1) 「タチワセ」の収量

#### ①試験場所

農林水産省 九州農業試験場畑作部  
(宮崎県都城市：粗粒質黒色火山灰土壌)

#### ②試験の耕種概要

播種月日：昭和61年10月15日  
播種量：10a当たり2kg  
播種方法：全面散播

対照品種：ワセユタカ

1区面積：33.3m<sup>2</sup>

反復数：3反復

調査月日：1番草の草丈…昭和62年4月4日

1番草の収量…昭和62年4月12日  
(出穂率80%)

2番草の収量…昭和62年5月29日

施肥量(10a当たり)

土改資材：完熟堆肥 3t

苦土石灰 120kg

ようりん 60kg

元肥：燐硝安カリ1号60kg(9-9-7.2)

追肥：NKC-3号10kg(1.8-0-1.6)

### ③収量成績

宮崎県都城市にある農林水産省九州農業試験場畑作部において、1番草4月12日、2番草5月29日に刈取った結果は表1、表2のとおりです。1番草で「タチワセ」は生草収量、風乾収量ともにワセユタカよりも1割多収であり、10a当たり風乾収量で1,115kgに達しています。また風乾率が高く乾草利用しやすいことを示唆しています。乾草

表1 「タチワセ」の収量成績(I番草)

調査区分	A. 坪刈収量 (1m <sup>2</sup> ×2=2m <sup>2</sup> の3区制)			全刈収量 (33.3m <sup>2</sup> 一坪刈分2m <sup>2</sup> の3区制)			1区面積全収量 (3区制)			10a当たり換算収量		
	2m <sup>2</sup> 当たり 生草収量	同 左 風乾率	同 左 風乾収量	31.3m <sup>2</sup> 当たり 生草収量	同 左 風乾率	同 左 風乾収量	33.3m <sup>2</sup> 当たり 生草収量	同 左 風乾物収量	kg	%	kg	
ワセユタカ	a 13.058kg	14.4%	1.880kg	212.4kg	14.6%	31.010kg	225.458kg	32.890kg	kg	%	kg	
	b 13.648	13.2	1.795	232.4	12.5	29.050	246.048	30.845				
	c 12.408	14.4	1.787	239.5	13.8	33.051	251.908	34.838				
	計		5.462	684.3		93.111	723.414	98.573	7,241 (100)	13.6	987 (100)	
タチワセ	a 16.493	12.5	2.062	220.7	15.3	33.767	237.193	35.829	kg	%	kg	
	b 18.528	12.5	2.316	272.5	13.8	37.605	291.028	39.921				
	c 16.948	13.0	2.203	237.0	14.1	33.417	253.948	35.620				
	計		6.581	730.4		104.789	782.169	111.370	7,830 (108)	14.2	1,115 (113)	

表2 「タチワセ」の収量成績 (II番草)

品種	区	生草収量 風乾物収量		10a当たり換算収量		
		m <sup>2</sup> 当たり (2点平均)	m <sup>2</sup> 当たり (2点平均)	生草収量	風乾率	風乾物収量
ワセユタカ	a	1,765 g	538 g	kg	%	kg
	b	2,315	593			
	c	2,175	460			
	平均	2,085	530			
タチワセ	a	2,170	565	kg	%	kg
	b	2,560	481			
	c	2,555	427			
	平均	2,428	491			

生産の現場で「タチワセ」は見た目以上に収量があるということを耳にしますが、それを裏付けるデータと推察されます。また2番草の成績では、生草収量は多収ですが風乾率が低く、風乾収量は若干低収傾向にあります。これは1番草があまりにも多収であったため、2番草はその影響を受けたわけで、1~2番草合計においても「タチワセ」はワセユタカよりも多収となっています。

2) 「タチワセ」とワセユタカの混播

①試験場所

農林水産省 九州農業試験場畑作部 (都城市)

②試験の耕種概要

播種月日：昭和62年10月30日

播種量：10a当たり2.5kg

播種方法：全面散播

1区面積：50.4m<sup>2</sup> (8.0×6.3m) の2区制

施肥量：(10a当たり) 前記同様

表3 タチワセとワセユタカの混播成績

区	試験区構成	収穫時草丈	第1回調査 (63.4.29)			第2回調査 (63.5.3)			1,2回の平均収量	
			a区	b区	平均値	a区	b区	平均値	最収量	収量比
1	タチワセ単播(2.5kg播/10a)	147	1.330	1.510	1.420	1.515	1.355	1.435	1.428	114
2	ワセユタカ単播(同上)	143	1.180	1.070	1.125	1.395	1.345	1.370	1.248	100
3	タチワセ:ワセユタカ (2.5kg 20:80%)	143	1.480	1.510	1.495	1.465	1.605	1.535	1.515	121
4	": " (": 30:70%)	143	1.280	1.330	1.305	1.305	1.365	1.335	1.320	106
5	": " (": 40:60%)	147	1.340	1.320	1.330	1.275	1.255	1.265	1.298	104

注：両収穫調査とも天候不順のため、株元付着水あり、そのため坪刈り材料はすべて全量風乾物として秤量した。

表4 消化試験成績

品種	供試山羊	採食量(5日間の平均)		排糞量(5日間の平均)		体重100kg当たり乾物採食量	乾物消化率
		乾草	乾物	生	乾物		
タチワセ	No.1	761 <sup>g</sup>	712 <sup>g</sup>	897 <sup>g</sup>	309 <sup>g</sup>	kg	%
	No.2	784	734	718	283		
	No.3	1,045	969	1,207	399		
	平均	863	805	941	330		
ワセユタカ	No.4	896	834	1,068	362	3.46	
	No.5	702	651	840	300	3.63	
	平均	799	743	954	331	3.55	

注：数値は本試験5日間の平均(供試山羊別)。

収量月日：第1回4月29日・第2回5月3日

③収量成績

表3のとおり、本試験でも単播区ではワセユタカに対比し114%と風乾収量が多く、乾草適性が優れていることを示しています。また倒れやすいワセユタカと混播すると、倒伏の被害を軽減し風乾収量を引き上げる効果が注目されます。一般

にイタリアンライグラスは倒れやすい品種が多く、蒸れを生じ腐敗することがありますが、「タチワセ」を混播することにより倒伏を防止でき、かつ収量向上できるので、イタリアンライグラスの品種混播という新技術のパートナーとして「タチワセ」の利用が期待されます。

3) 「タチワセ」の山羊による消化試験成績

①試験場所

農林水産省 九州農業試験場畑作部 (都城市)

②試験方法

供試材料：昭和62年4月12日刈取り調製した乾草(タチワセ, ワセユタカ)

消化試験供試山羊：5頭(21~26kg)

消化試験期間

予備試験：昭和63年2月8~14日連続7日間

本試験：昭和63年2月15~19日連続5日間

細断乾草の給与量(自由採食)

朝夕

タチワセ No1 500g 500g

" No2 500g 500g

" No3 500g 700g

ワセユタカ No4 500g 700g

" No5 500g 500g

消化試験方法：全糞採

取法による

③試験成績

表4のとおり、消化試験中の食い込み状況は、「タチワセ」の山羊3頭はいずれもコンスタントに食い、可食速度はワセユタカよりも早い傾向が見られた。体重100kg当たり採食量はやや低かったが、乾物消化率はワセユタカより優れ、「タチワセ」は乾草利用して適性が高いことが

明瞭である。

### 3 「タチワセ」の優良栽培事例

南九州において「タチワセ」を栽培し、他品種に比較して明らかに良かった事例を述べてみます。

#### 1) 異常暖冬でも蒸れなかった「タチワセ」

南九州は昨秋から今春にかけて異常暖冬であり、イタリアンライグラスは例年よりも伸びが旺盛で蒸れによる被害が多く発生しました。しかし「タチワセ」は直立型で倒れないため、蒸れない画期的品種であるとの声が聞かれました。これは前述のイタリアンライグラス品種間混播の試験でも述べましたが、南九州の各地の現場からも全く同様の高い評価の声を聞き驚いています。暖冬や多雨といった異常気象は最近ひんぱんに繰り返されていることでもあり、「タチワセ」の倒伏に強い草姿は意外なほど好評のようです。

#### 2) 見た目より乾草生産量が多かった「タチワセ」

農家の人の声をよく耳にしました。「タチワセ」の乾草収穫を終って「見た目よりふとかばい」これは九州の方言であり、生産量が多かったという意味であり、「タチワセ」は独特の直立型であるため、一見、収量は少ないように見えますが、現場では乾草の量が多く喜ばれています。

#### 3) 「タチワセ」の乾草は牛の喰い込みが良い

「タチワセ」の乾草を始めて作り、牛の喰い込みの感想を聞くと、開口一番「べぶの喰い込みがよかあ〜」と返ってきます。この声を聞くと思わず「ニッコリ」とうれしくなってしまいます。つまり南九州では、牛のことを「べぶ」と呼び、「よか



タチワセとレンゲの混播利用 (宮崎県都城市)

あ〜」とは良いと言うことで、「タチワセ」の乾草は牛の喰い込みが良いという声も多く聞くことができました。この点の裏付けは表4の消化試験結果からもうかがわれます。

#### 4) マメ科牧草やイタリアンライグラス他品種との混播適性が高い

最近、マメ科牧草が注目され、イタリアンライグラスにも混播利用している人の声を聞きますと、初めて「タチワセ」と混播してみたら直立型なので、ここでも「よかあ〜」と連発されました。特にクリムソクローバ、コモンベッチ、レンゲなどが多く栽培されていました。今後はこれらの飼料特性や草種の適性も合わせて検討していきたいと考えております。

## 4 おわりに

今回「タチワセ」の試作成績と消化試験成績について、3年間にわたるデータを農林水産省九州農業試験場畑作部より提供していただきました。特に3月末に同試験場を退職された小野先生に深く感謝いたします。小野先生に地域農家の方々の信望が厚く、常に畑作地帯における畜産経営と畑作物との共存共栄および農家の方々の利益を守る立場から、地域に密着した研究を進めておられました。「タチワセ」をこよなく愛していただいた先生に感謝申し上げますとともに、多くの人たちに広く利用していただけますように祈念いたします。



タチワセの乾草風景 (宮崎県都城市)